

Sapporo Live Demonstration Course 2025

前書きのようなものとして

医療が進化している、という言葉には、どこか薄暗い陰がある。

PCIやEVTは、より複雑な解剖へと踏み込み、

SHDは開胸せずに、それまで不可能だった構造的疾患にデバイスで挑む。

アブレーションは電気を操り、ついには熱も冷たさも不要な“電気穿孔”に手を染めはじめた。

——だが、それは本当に「進化」なのか？

患者は高齢化し、若き循環器医師は減少し、制度は日々改変されていく。

われわれは、より細く、より困難な導管の先に、かつてない病態と対峙しなければならない。

そして今、私たちの前にあるのは、単なる病変ではない。

制度の限界、人材の枯渇、資本のバランス、そして——「どこまで治療すべきか？」という、本質的な問いである。

けれど、その中心に在るべき「現場の医師やスタッフたち」は、

果たしてどれだけの情報と技術に、リアルタイムでアクセスできているだろうか。

私たちは、「地方開催」であることの意義を、あらためて問い直しました。

アクセスの制約を越え、地域医療の最前線に立つ者たちが、

等しく知識と技術に触れられる場——それが、札幌ライブの原点であり、未来でもあります。

今年のテーマは「HOP」。

これは希望ではない。**跳ねるための準備**だ。

跳躍の前に、膝を曲げ、地を蹴り、力を蓄える時間である。

各コース（PCI・EVT・SHD・アブレーション）では、

単なるライブ症例を超えた、議論と学びが交錯する設計としました。

特にPCIでは、**北陸KCCとの共催**も決まり、地域連携と技術交流の新たな形が生まれようとしています。

札幌で得られるのは、最先端の技術だけではありません。

現場でしか語られないリアル——そして、仲間との出会いこそが、次の一步を導くと信じています。皆さ
まと、**札幌の地で、あるいはWeb上**でお会いできますことを、心より楽しみにしております。

特定非営利活動法人サッポロライブデモンストレーションコース 理事長
Sapporo Live Demonstration Course (SLDC) 2025 Course Director



八巻 多（札幌厚生病院）